

Salesforce データバックアップのご案内と手順マニュアル

組織の大切な資産を守るための定期バックアップ実施手順

はじめに（バックアップの重要性について）

Salesforce は非常に堅牢なクラウドインフラストラクチャ上で運用されており、高度なセキュリティと可用性が提供されています。しかしながら、共有責任モデルにおいて、データの誤削除、一括処理による上書き、意図しない設定変更（メタデータの損失）などのユーザー起因のトラブルからの復旧は、原則としてユーザー側の責任および管理範囲となります。万が一のデータ消失やシステムトラブルに備え、組織全体でのリスクヘッジとして、定期的なデータバックアップの実施にご協力をお願いいたします。

【このようなリスクを防ぎます】

- ・操作ミスによる重要レコード（取引先・商談など）の誤削除
- ・データローダ等を用いた一括更新時の誤った上書き・データ破損
- ・カスタム項目やフローなどの設定変更・削除による影響の切り分けと復旧

想定されるバックアップの頻度と方針

業務の重要度やデータ更新の頻度に応じ、適切なタイミングでのバックアップを推奨しています。

対象データ	推奨頻度	主な目的
主要マスタ・トランザクションデータ （取引先、取引先責任者、商談、 カスタムオブジェクト等）	週次 または 月次 （大規模なデータ更新の 前後は随時）	誤削除や一括上書きからの迅速な データ復旧用
メタデータ（設定情報） （オブジェクト定義、フロー、 レイアウト等）	主要なリリース・改修時	設定変更時のロールバックおよび 構成履歴の保持

バックアップの主な実行方法

Salesforce における代表的なバックアップ手段として、標準機能である A. 「データエクスポートサービス」を用いた手順と、B. 「データローダ」を用いた手順を以下に示します。

A. データエクスポートサービス（ウィザードによる一括出力）

週次または月次で、システム内の全データを ZIP 形式（CSV ファイルの集まり）で自動または手動エクスポートする機能です。

1. 設定画面を開く

Salesforce に管理者権限（または十分な権限）を持つアカウントでログインし、画面右上歯車アイコンから「設定」を選択します。

2. エクスポートメニューの検索

クイック検索ボックスに「データエクスポート」と入力し、「データエクスポート」 > 「エクスポートのスケジュール」をクリックします。

3. エクスポート条件の選択

エクスポートに含めるオブジェクト（取引先、商談、カスタムオブジェクトなど）を選択します。必要に応じて「ファイルを添付ファイルとしてエクスポートに含める」などのオプションにチェックを入れます。

4. スケジュールの保存

頻度（月次または週次）や開始日を指定し、「保存」をクリックします。手動ですぐに実行したい場合は「今すぐエクスポート」を選択することも可能です。

5. ファイルのダウンロード

エクスポート処理が完了すると、通知メールが届きます。メール内のリンク、または再度「データエクスポート」画面から、生成された ZIP ファイルをローカル環境の安全な保管場所へダウンロードします。

B. データローダー（Data Loader）を利用したバックアップ

特定のオブジェクトや、任意の条件を指定して細かくデータを CSV 形式で抽出し、バックアップを取得したい場合に有効な方法です。

1. データローダーの起動とログイン

「Data Loader」を起動し、「Export」をクリックします。ご自身の Salesforce 環境(本番または Sandbox)にログインします。

2. 対象オブジェクトの選択

バックアップしたいオブジェクト(例: 取引先 [Account]、商談 [Opportunity] など)を選択し、出力先の CSV ファイル名を指定します。

3. SOQL クエリ(抽出条件)の作成

クエリビルダーを使用して項目を選択します。全件抽出する場合はそのまま、条件を絞る場合は抽出条件(WHERE 句など)を指定して「Finish」をクリックします。

4. エクスポートの実行と確認

抽出処理が完了すると、成功・失敗の件数が表示されます。指定した保存先に CSV ファイルが出力されていることを確認します。

⚠ セキュリティ上のご注意

エクスポートされた CSV ファイルには、組織の機密データや個人情報が多数含まれています。ダウンロードしたファイルの保管場所については、社内セキュリティ規程に従い、アクセス権限の制限された安全なフォルダで厳重に管理してください。

【メタデータ(設定情報)バックアップについて】

オブジェクト定義、フロー、カスタム項目、ページレイアウトなどの「メタデータ(設定情報)」は、データエクスポートやデータローダではバックアップできません。本マニュアルでは、手軽に実施できる「変更セット」を利用したバックアップ手順を解説します。

1. 設定画面を開く

Salesforce の管理者権限でログインし、画面右上の歯車アイコンから「設定」を開きます。

2. 変更セットの検索

クイック検索ボックスに「変更セット」と入力し、「送信変更セット」をクリックします
(※初回は利用規約が表示される場合があります)。

3. 新規変更セットの作成

「新規」ボタンをクリックし、名前(例: Backup_202609_FlowUpdate)と説明を入力して保存します。

4. コンポーネントの追加

「変更セットコンポーネント」セクションの「追加」をクリックし、バックアップしたい設定要素(例: フロー、カスタムオブジェクト、カスタム項目)を選択して追加します。

5. 保存・管理の完了

必要なコンポーネントを追加したら、そのまま変更セットとして保持します。別の Sandbox 環境がある場合は「アップロード」して保存しておくことも可能です。

開発者だけでなく、「少しフローを作ったりする程度」の一般ユーザーや管理者であっても、メタデータのバックアップ（または変更管理）は意識しておく必要があります。

ノーコード・ローコードの環境であっても、メタデータ管理が重要である理由は以下の通りです。

- フローや自動化の損失リスク

画面フローやレコードトリガーフローを時間をかけて構築・修正した後に、誤って削除したり上書き保存してしまったりした場合、データエクスポートでは中身を復旧できません。

- カスタム項目の追加・変更

「ちょっとした項目を追加した」「選択リストの値を変更した」という小さなカスタマイズの積み重ねもメタデータです。

「元の設定に戻したい」「誰がいつ変えたか確認したい」となった際に履歴がないと困ります。

- 変更セットの手軽さ

本格的な VS Code を使ったコード管理をしなくても、前述の「変更セット」を活用すれば、フローや項目を作ったタイミングでサクッと構成を保存・管理しておくことができます。

トラブル発生時の対応と確認事項

万が一データ消失や不整合が発覚した場合は、速やかに以下の手順で対応を行ってください。

1. 影響範囲の特定(どのオブジェクトの、どの期間のデータが失われたか)
2. 直近のバックアップファイル(ZIP/CSV)の有無と整合性の確認
3. データローダ等を用いたインポート(Upsert/Insert)によるリストア・復旧作業の実施
4. システム管理者および関係部署へのエスカレーション